

## 緩和医療センター

### 1. スタッフ

センター長（兼）教授 土岐 祐一郎

その他、病院教授1名、講師2名、助教8名、副看護部長1名、副看護師長3名、看護師2名、栄養管理室長1名、薬剤師2名、医療技術員1名、医療ソーシャルワーカー2名、事務補佐員1名

（兼任を含む。また、助教は特任を含む。）

（令和2年4月1日より）

センター長（兼）教授 江口 英利

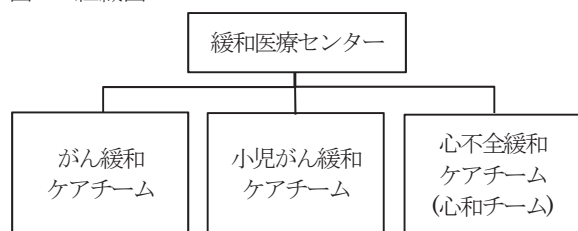
### 2. 設立の経緯及び組織構成

緩和医療センターは、がんや重症心不全などの病気で治療中の患者が抱える様々な苦痛に対して、緩和ケアという側面から多職種が連携してサポートする連携診療部門として、2019年4月1日に設立された。

従来は、「緩和ケア＝病気の治療法がなくなった方の終末期ケア」と認識されていたが、現在では、病気の診断を受けた時点から病気の治療と並行して早期に緩和ケアを取り入れ、患者やご家族の苦痛を緩和しながら治療や療養が行われるようになってきている。本院では、2004年から緩和ケアチームを立ち上げ、主にがん患者を対象に痛みなどの苦痛な症状や気持ちのつらさなどの緩和に取り組んできたが、当センターを開設することにより、より多くの患者やご家族のニーズに対応し、また重症心不全など、がん以外の病気の方に対する緩和医療にも積極的に取り組んでいくことをめざしている。

当センターは、3つのチーム（図1）で構成されており、それぞれがチームアプローチで専門的な緩和ケアやサポर्टティブケアに取り組んでいる。また、各チームが連携して包括的な緩和ケアを行う体制づくりをめざしている。

図1. 組織図



### 3. がん緩和ケアチーム

がん緩和ケアチームは、2004年度より活動を開始し、がん患者の苦痛に迅速かつ的確に対処できるよう取り

組んできた。2006年度には緩和ケアチーム診療加算の算定を開始した。

#### (1) 診療内容

##### 1) 入院中の緩和ケア

本院のがん緩和ケアチームの特色の一つは、がんの治療中の患者からの依頼が非常に多いことである。患者が自分らしく治療や療養に取り組めるよう、「痛みや吐き気など身体が辛い」「不安や気分の落ち込みなど気持ちがつらい」「夜眠れない」「病気との向き合い方で悩んでいる」などの症状や困り事についての相談に応じている。

##### 2) 緩和ケア外来

2009年度から緩和医療外来を開設し外来患者の緩和ケアのニーズに対応している。ペイン外来（がん疼痛緩和初診）とも連携し、入院・外来で切れ目のない緩和ケアを提供する体制を取っている。また、2019年6月には外来初診枠を開設し、入院中に介入した患者に限定していた緩和ケア外来の対象を外来初診の方にも拡大した。

#### <外来初診>

- ・対象：がん治療で通院中の方・症状緩和が必要な方
- ・場所：オンコロジーセンター棟1F 外来6診
- ・診察日：毎週木曜日
- ・予約枠：9時～10時と10時～11時の2枠  
（※完全予約制）
- ・担当者：がん緩和ケアチームの身体担当医、精神担当医、看護師

##### 3) スクリーニング結果に対する対応

2014年度から、がん患者の身体や気持ち、生活に関するつらさや困り事に対して早期から様々な職種が協力して対応できることを目指して、がん患者を対象に緩和ケアスクリーニングを導入した。スクリーニングを通して発信されるがん患者のつらさや困り事は多岐にわたり、病棟のスタッフを中心に、保健医療福祉ネットワーク部、心のケアチーム、がん相談支援センター、がんリハビリテーションチームなどと連携をとり対応している。

##### 4) 緩和ケア関連の研修開催

緩和ケア研修会や緩和ケアリンクナース会の企画や運営を担当している。

#### (2) 診療体制

構成員は、身体担当医師2名（専従1名、兼任1名）、精神担当医師2名（専任1名、兼任1名）、がん看護専

門看護師 2 名（専従）、緩和ケア認定看護師 1 名（専従）、薬剤師 1 名（兼任）、医療ソーシャルワーカー 2 名（兼任）である。

#### (3) 診療実績

2019 年度の新規依頼件数は 265 名、緩和ケア外来の診療件数は 161 件であった。依頼内容は、①痛みのマネジメント 55%、②疼痛以外の身体症状（倦怠感、悪心・嘔吐、食欲不振、浮腫、便秘、呼吸困難、咳、腹水、胸水）のマネジメント 25%、③精神症状（不安、不眠、抑うつ、せん妄）のマネジメント 13%、④その他 7%であった。

### 4. 小児がん緩和ケアチーム

#### (1) 診療内容

昨年発足した小児がん緩和ケアチームでは、本院で療養しているすべての小児・AYA 世代患者、そのご家族や関係者の“からだ”と“こころ”のつらい症状を緩和する医療の提供を目標としている。

小児科医、小児外科医をはじめ整形外科医、脳外科医などの関係各科、看護師、チャイルドライフスペシャリスト（CLS）、医療ソーシャルワーカー（MSW）、心理士など多職種の医療スタッフで定期的なカンファレンスを施行し、情報共有と支援を行っている。また、日常診療の間で、個々の患者の特性や年齢に応じた身体的・心理的ケアや生活のサポートや医療支援の提供等を行っている。

#### (2) 診療体制

小児血液・腫瘍専門医 1 名、小児外科医 1 名、看護師（小児医療センター師長 2 名、リンクナース 2 名）、CLS 1 名、MSW 1 名をコアメンバーとし、早期からの介入を行っている。症例に応じて他診療科（整形外科や脳外科、血液・腫瘍内科など）、心理士や生殖医療センター担当医など多職種と連携して患者への介入を行っている。

#### (3) 診療実績

小児医療センター連絡会議にて活動が承認され（2019 年 11 月）、定期的なカンファレンスと症例相談を開始した。1 例の介入後、感染症対策強化時期と重なり定期的なカンファレンスができなくなったため、常時 10 - 15 名入院している小児血液・悪性腫瘍疾患症例を中心に身体的、心理的サポート、医療支援の提供、就学支援（退院時カンファレンス）を個別に施行した。

### 5. 心不全緩和ケアチーム（心和チーム）

#### (1) 診療内容

心不全緩和ケアチーム（心和チーム）は入院重症心不全患者を対象に、ICU では週に 1 回、病棟では 2 週に 1 回の定期的なカンファレンスと回診を行い、治療方針をめぐる意思決定の支援、身体・精神症状の緩和、心理サポート、家族ケア、アドバンスケアプランニング、退院後生活支援のサポートを行っている。チームにはハートセンター医師・看護師だけではなく ICU 看護師も加わっており、より急性期からの支援を目指している。また 2 か月に一回程度の会議では、活動の課題や改善点について話し合いを行っている。現在進行中のプロジェクトとして、アドバンスケアプランニングを円滑に進めるためのパンフレットの作成や事前指示書の改訂、今後保険収載される予定の植え込み型補助人工心臓の Destination Therapy についての意思決定ガイドの開発などがある。

#### (2) 診療体制

身体担当医師として循環器内科・心臓血管外科医師各 1 名、精神担当医師 1 名、看護師 13 名（精神看護専門看護師、慢性心不全看護認定看護師、人工心臓管理技術認定士、ICU 看護師）、臨床心理士 1 名、理学療法士 3 名、医療ソーシャルワーカー 1 名で活動を行っている。

#### (3) 診療実績

2019 年度までの新規介入患者は 82 件であった。2019 年度の活動から ICU 看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーが新たにチームに加入しており、急性期からの早期の介入、また退院後療養環境までを見据えたシームレスなサポートを提供できる体制となっている。